

ミライカナエル活動サポート事業

～令和6年度実施事業報告～



市民活動は未来へ



スタート支援コース

番号	区分	団体名	事業名
1	一般枠	働く授乳コミュニティ Cocochie (ココチエ)	仕事と授乳を快適に！ 母親が繋がる場づくり
2	一般枠	辻堂砂山子ども食堂	子ども食堂事業
3	一般枠	特定非営利活動法人 育ち合い広場・てとてとて	てらこやわははプラス

ステップアップ支援コース

番号	団体名	事業名
1	特定非営利活動法人 湘南多文化ガーデン	多文化の親子への就学・編入サポート

協働コース

- 事業1年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政との協働	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット	藤沢市 市民自治推進課	電子回覧板普及支援事業

- 事業2年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政との協働	みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ	藤沢市 子育て企画課(現 子ども総務課)	子どもの居場所スタートアップサポート事業

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ）
事業名	仕事と授乳を快適に！母親が繋がる場づくり
事業費	103,197 円（うち藤沢市補助金 103,000 円）

事業の目的

キャリアのある母親が、母親同士のサポートを通じて心地のいい授乳ができ、多様な母親の生き方を尊重し合い、我が子と母親自身をいつくしむ環境を作ることが目的とする。

事業の内容と成果・効果

＜事業の内容＞

- ・ 8月～11月 広報物作成・配架
（団体紹介カード・事業案内チラシ・ワークショップチラシ）
- ・ 9月26日 相談会実施
（@湘南藤沢オーパ：計12人参加）
- ・ 12月19日 ワークショップ第1回開催
（テーマ：働きながら母乳育児を続ける利点や卒乳のタイミング @湘南藤沢オーパ：計11人参加）
- ・ 1月12日 ワークショップ第2回開催
（テーマ：先輩ママの話と知っておきたい相談先：オンライン：計9人参加）
- ・ 2月5日 ワークショップ第3回開催
（テーマ：仕事復帰前に何したらいい？みんなで話そう @湘南藤沢オーパ：計15人参加）



＜成果・効果＞母親が交流できる場づくりとして連続3回で行うワークショップを企画して、セルフケア能力を



高める取組を実施したことにより、累計19組（計35人）が参加し、従来参加の1～2組/回を大きく上回った。アンケート結果から、実施内容に対する評価は高く、仕事復帰前の授乳や心配事に関する不安の解消につながったと考える。また、知人や友人による紹介による参加者も徐々に増えており、少しずつ団体認知が進んでいると感じている。Instagramのフォロワーは目標数に届かなかったが、フォロワー以外からのアクセス数が目標を大きく上回り、情報を必要とする母親や関心のある方へ認知が広がったと認識している。

事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

＜事業を実施しての課題＞

- ①事業の実施方法や集客⇒実施計画を見直すことや会員の経験を重ねる必要性や仕事復帰する授乳中の母親のニーズを汲み取ることがもっと必要だと感じた。
- ②リピーター不足⇒参加者と会員の信頼関係の構築や「授乳後の母親とどう繋がるか」等のアプローチが不足していたと認識している。

＜3年後に叶えたいミライ＞

仕事をしながら母親になった女性やパートナーが、仕事復帰や母乳育児について悩んだ時、必要とする情報がすぐに手に入り、社会で活躍しながら子育てしやすい藤沢市をつくる
そのために…

- ①コミュニティづくり事業⇒集客やリピーター不足の課題を踏まえ、母乳育児や子育てを支援する他団体と連携して楽しく運営できる要素を模索する。母親の関心の高いテーマを調べて話題に取り上げ、つどい（座談会）や相談会、ワークショップを交えてコミュニティづくり事業を実施する。
- ②広報事業⇒利用者からいただいた「参加者の経験談が聞けて考えの整理ができた」という意見を踏まえ、母親（またはパートナー）の体験談等について取材した記事をウェブ上で掲載する企画を立て、HPやSNSと連動させながら広報事業を実施する。

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	辻堂砂山子ども食堂
事業名	子ども食堂事業
事業費	127,467 円（うち藤沢市補助金 106,000 円）

事業の目的

困窮している家庭の子ども、両親もしくは一人親の家庭の子供が、十分な食事をとれない、一人で食事をする（孤食）の状況にある。このような子どもたちが、友達やボランティアと楽しく食事がとれる居場所をつくる。

事業の内容と成果・効果

〈事業の内容〉

辻堂砂山市民の家を活動拠点に、月1回の子ども食堂を実施した。（計8回）

また、食事後に利用できるレクリエーションコーナーを設け、子供たちが自由に遊べる居場所の提供を行った。

2024 年

- ・8月10日 参加者 19 名・ボランティア 11 名
- ・9月14日 参加者 36 名・ボランティア 9 名
- ・10月12日 参加者 21 名・ボランティア 6 名
- ・11月9日 参加者 19 名・ボランティア 10 名
- ・12月14日 参加者 21 名 ボランティア 12 名

2025 年

- ・1月11日 参加者 21 名・ボランティア 12 名
- ・2月8日 参加者 21 名・ボランティア 15 名
- ・3月8日 参加者 37 名・ボランティア 7 名



食事の様子

〈成果・効果〉

期間を通して、のべ209名が子ども食堂を利用した。一人親・共働き両親の家庭の子供たちが来場することにより、孤食の状態を解消でき、同時に家事支援の役割を果たすことはできた。子どもたちとその両親、ボランティアスタッフ、湘南工科大学のボランティア部が交流できたため、つながりができた。孤独な子どもを助けるセーフティネットの一部になることができた。来場者のアンケートを実施したり、メールやインスタDMなどで子ども達や両親の声を聴くと、食事に関しては野菜も多くてとてもおいしいという声が多かった。子どもたちを連れて親が来ることにより、親同士のコミュニケーションが取れ、ほっとできる場を作ることができた。



レクリエーションコーナーの様子

事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

〈事業を実施しての課題〉

- ・当初はボランティア確保に苦労したため、食事提供のみの活動になり、学習支援や子供たちの遊びの相手をする事ができなかった。⇒後半はボランティアを確保し、遊び相手になることができた。
- ・困窮している家庭の子供たちがきている様子は見られなかった。⇒広報の仕方を検討

〈3年後に叶えたいミライ〉

- ①居場所づくり⇒子ども食堂で子どもたちが新しい友達ができ、子供たちのつながりが大きくなる。
- ②親同士の交流の場作り⇒交流の場ができることにより、情報交換したり、リラックスできる場を作っていきたい。
- ③子供から、高齢者まで気軽にこれる場所づくりを行い、地域社会全体が子供を見守り・育てる地域にしていく。

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて
事業名	てらこやわははプラス
事業費	191,770円（うち藤沢市補助金 127,000円）

事業の目的

地域の子育て中の親が孤立しないよう、気軽に立ち寄れる世代を超えた交流の場づくりを行う。先導役は各々の得意分野を発揮し、地域で子ども達を見守り、育ち合える環境を整える。

事業の内容と成果・効果

〈事業の内容〉

・てらこやわははプラスの実施
週に1回開催している放課後の居場所内で、地域の大人が自分の得意分野で可能性に挑戦する（講座を実施する）ためのコーディネートを実施。（8月～3月 計24回実施）

～実施内容のご紹介～



「お月見団子づくり」実施
参加者：
大人5名+子ども5名
お月見団子づくり、
三方づくりを行い、
日本の行事十五夜を継承。



「パステルでカラーセラピー」
参加者：大人8名+子ども3名
幼児連れの親子、高校生、80代と、
幅広い年代の方が参加され、それぞれの
選んだ色から分かる性格などを聞き合い、
世代を超えて会話を楽しんだ。



「大人の学び直し英会話」
参加者：大人3名
・外国人住民や旅行者との
交流に役立つ英会話を学んだ。
・先導役は幼児連れでも
集中して行っていた模様。
・参加者も幼児連れが多く、
子連れでも気軽に学べる
環境を提供できた。

〈成果・効果〉
得意分野で自分の可能性に挑戦する講師（先導役）として、延べ24名（実人数16名）の地域の方が、講座を実施した。その場に、計232名の大人、291名の子どもが集い、多世代多様な人との関わりが出来る場となり、わはは（居場所）へ通う子どもたちが多様なヒト・モノ・コトと触れ合う場になった。また、参加者へのアンケートからは、「自分の得意分野で地域貢献できたことがうれしい」といった声や「この活動が、地域の人々の繋がりの源泉になっていると感じた」といった声をいただいた。

事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

〈事業を実施しての課題〉

- ①先導役（講師）と地域住民（講座参加者）のニーズの不一致⇒アンケート等で地域住民のニーズ収集
- ②大人の参加者が増えず、収支バランスを検討する必要がある⇒先導役の登録料、謝礼額、仕組みの見直しを行う。
- ③材料費がかかり、子どもが参加しづらい講座があった。⇒大人からの寄付の仕組みを検討

〈3年後に叶えたいミライ〉

子どもも大人も自発的な活動を通じて繋がれるまちづくり。十人十色の得意分野を活かせる場を作る。そのために…

- ①てらこやわははプラス事業を改善しながら継続する。（要望の把握・情報発信等）
- ②学びたいことがある人が企画を提案し、人数を集め、講師を招く積極的な学びの場「てらこやわははプラスプレミアム」を実施する。
- ③無料で参加できる「子ども達向けプラス」の企画を検討

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	特定非営利活動法人 湘南多文化ガーデン
事業名	多文化の親子への就学・編入サポート
事業費	503,590 円（うち藤沢市補助金額 500,000 円）

事業の目的

多文化の子どもが小・中学校で安心して学校生活をスタートし、過ごしていけるよう、子ども・保護者を支援する。また、継続的な支援につなげるため、支援者や教育関係者が課題を認識、共有し、連携できるようにする。

事業の内容と成果・効果

〈事業の内容・成果・効果〉

①多文化の親子支援研修会・連絡会

藤沢市内の多文化の親子の支援に関わる関係者向けに、外部専門家呼び、研修会・連絡会を開催。【1回目】「社会福祉法人せんねん村 多文化ルーム KIBOU」川上貴美恵先生を講師としてお招きし、西尾市での実践に触れながら、プレスクールの意義と効果について講演いただいた。また、当団体から、藤沢市のプレスクールの実践の報告も行った。参加者計 27 名【2回目】「地球っ子クラブ 2000」代表、高柳なな枝先生をお招きし、低学年の子どもへの指導の実践紹介の後、グループで就学前・低学年の子どもへの実際の指導を考えるワークショップを行った。参加者計 31 名



②多文化の親子の継続サポート

プレスクール・プレクラスに参加した親子等を対象に、参加後のフォローアップを実施。参加者は、子ども 11 名（小学生 6 名、中学生 5 名）、保護者 7 名。アンケートでは、子ども・保護者共に全員「また参加したい」と回答し、子ども・大人共に全員「内容がとてもよかった／よかった、また参加したい」と回答した。学校に通い始めた子どもの様子がわかるとともに、保護者の声を拾う機会を設けることができ、参加者同士がつながるしかけづくりができた。



③就学・編入前サポートプログラム・④「編入前サポートプレクラス」の改善・実施

【1回目】4月から藤沢市内の小学校に入学予定の多文化の子どもとその家族5名が参加。両親には藤沢市の外国につながる児童支援の仕組みや日本の学校についての情報を伝え、入学予定の子どもには小学校での学習体験や日本語指導等を行った。【2回目】藤沢市の小学校に入学予定の子ども 3 名と保護者ら、計 8 名が参加。1 日目から継続の参加者と初参加者に分けて、初参加者には 1 日目の内容も加えた説明を行い、継続の参加者には、2 日目の説明を行った。また子どもたちには日本語の学習やゲームを行った。午後は、藤沢市内の小学校に転入する子ども 1 名、新入学の子ども 2 名、すでに学んでいる子ども 1 名の計 4 名と保護者 2 名が参加した。保護者には様々な説明を行うとともに、相談事に応えた。子どもたちは、日本語学習や多文化に関するゲームを行った。



事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

〈事業を実施しての課題〉

①研修会・連絡会…保育園や幼稚園への働きかけに関して具体的な検討。参加者個々のつながりを大きな円とするための仕掛けづくり。②多文化の親子の継続サポート…継続したサポートにつなげるための要素検討。継続サポートでの気づきを学校や指導者に共有する道筋の検討。③就学・編入前サポートプログラム・④「編入前サポートプレクラス」の改善・実施…日程・場所の検討。学校での認知向上・広報の協力を得ること。チラシについて、日本語が苦手な保護者でも必要性がわかるデザインの検討など

〈3年後に叶えたいミライ〉「どんな言語文化背景の子どもも大人も、認められ、ともに成長していける」社会。

そのために…

多文化の親子の現状について関係部署が把握し、多文化の親子に寄り添いながら支援をする。関係部署、団体が連携することで、多文化の親子が、子どもの入学・編入前後も含め、日本語や教科支援、母語保持まで、切れ目ない多様な支援を受けられるようにする。

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政との協働）

団体名	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット
協働相手	藤沢市 市民自治推進課
事業名	電子回覧板普及支援事業
事業期間	2024年（令和6年）4月1日～2025年（令和7年）3月31日〈事業1年目〉
事業費	1,409,425円（うち藤沢市負担金 1,408,000円）

事業の目的

自治会・町内会（以後”自治会”と称す）では、市や市民センターまた自治会から印刷した回覧物が配布され回覧として各世帯へまわしているが、これを電子回覧板として会員に直接配信することを普及支援する。

事業の内容と成果・効果

〈事業の内容〉

1.電子回覧板説明会の募集開始

4月 説明会チラシ作成 各地区に周知
順次、各6地区での申込受付開始

2.説明会資料準備

説明会・個別相談会に向けた資料の作成。

◆資料準備

電子回覧板説明会、個別相談、伴走支援に向けて各種資料を作成

説明会チラシ



3.回覧板導入のツール研究

電子回覧板導入に向けたアプリ等を研究。

◆アプリ研究

スマホ等でアプリをインストールし利用する方法を研究

（例：LINE,いちのいち,BAND等）

◆メルマガ研究

メールマガジン（メールを一斉送信）を利用する方法を研究

（例：オレンジメール,Benchmark等）

4.電子回覧板説明会の開催…市内6地区で説明会を実施。

- ・ 7月12日（金）湘南台市民センター
 - ・ 7月13日（土）湘南大庭市民センター
 - ・ 8月28日（水）辻堂市民センター
 - ・ 11月8日（金）片瀬市民センター
 - ・ 11月16日（土）六会市民センター
 - ・ 12月8日（日）長後市民センター
- 合計128自治会の参加があった。

市民センターでの説明会



【内容】回覧板の現状（自治会内での配布、人の手による回覧等）

電子回覧板の利点（即時性や随時閲覧、カラーの閲覧、動画発信等）

ツール紹介（アプリ、メルマガの紹介）相談伴走支援案内等

5.個別相談会の実施…電子回覧板の導入を検討している自治会へ個別相談を実施した。

5月～3月 申し込みのあった自治会に個別相談を実施 28自治会

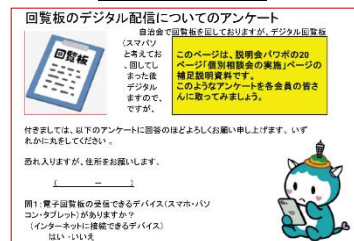
【内容】電子回覧板の導入にあたっての疑問解消や、自治会内デジタル配信アンケートの支援、

自治会の希望に合ったツール（アプリ比較、導入手法の選択フロー）となるようアドバイスを実施

〈成果・効果〉

- ・説明会へ参加 128自治会（うち個別相談実施 28自治会）
- ・自治会内で検討・実施
 - ①電子回覧板を開始 4自治会 ②自治会内試行中 6自治会
 - ③自治会内検討中 17自治会 ④導入を辞めた 1自治会

アンケートサンプル



事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

既に、電子回覧板を検討されている自治会もあり、1年目で4自治会が実施に踏み切った。これらの自治会さんは、既に検討されてきており、それなりのスキルを持った方が運営されているが、今後に関しては、これから検討を行う自治会さんが多数なので、2年目は、伴走支援に力を注ぐ必要があるかと思われる。

作成したパンフレットを、各自治会・町内会に配布し、湘南ふじさわシニアネットの事業として、取り組んでいきたい。全ての自治会・町内会で電子回覧板を使用している状況にしたい。

〈令和6年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政との協働）

団体名	みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ
協働相手	藤沢市 子育て企画課（現：子ども総務課）
事業名	子どもの居場所スタートアップサポート事業
事業期間	2024年（令和6年）4月1日～2025年（令和7年）3月31日〈事業2年目〉
事業費	1,151,203円（うち藤沢市負担金 1,000,000円）

事業の目的

子どもの居場所づくりを始めたい市民を対象に、仲間づくりと、実施に向け一歩を踏み出すサポートをすると同時に、藤沢市子ども共育計画の指標である「子どもの居場所を増やす」の達成と、市民の家の有効活用を目的とする。

事業の内容と成果・効果

〈事業の内容〉

- 2024年5月～9月 『第3期 子どもの居場所スタートアップサポート講座(WS)』開講 →受講生 16名
【19：00～21：00@明治公民館】
DAY1 5月10日（金） / DAY2 6月14日（金） / DAY3 7月12日（金） / DAY4 8月9日（金） / DAY5 9月13日（金）
 - 2024年10月～翌年2月『第4期 子どもの居場所スタートアップサポート講座(WS)』開講 →受講生 21名
【10：00～12：00@善行公民館】
DAY1 10月13日（日） / DAY2 11月10日（日） / DAY3 12月8日（日） / DAY4 1月12日（日） / DAY5 2月9日（日）
- ※第4期も第3期と同内容にて実施し、オンライン受講も取り入れた。

DAY1 5月10日（金）「知り合おう」

オリエンテーション、自己紹介、藤沢市子ども共育計画（藤沢市）
7つの習慣①主体的である、「New&Good（交流タイム）」

DAY2 6月14日（金）「夢を思い描こう」

7つの習慣②ゴールを決める ③最優先事項を優先する
先輩事例紹介・遊び場（ボードゲームでツナグ手 長山氏）
・不登校支援等（自由創造ラポたんぽぽ 米澤氏）他

DAY3 7月12日（金）「課題を知る」

特別講座「支援者の在り方」（湘南DVサポートセンター 瀧田氏）
7つの習慣④Win-Win を考える
子どもを取り巻く環境…DV,虐待,ヤングケアラー,発達,不登校等

DAY4 8月9日（金）「夢を具体化しよう」

特別講座「傾聴のポイント」（湘南学校教育研究所 橋本氏）
7つの習慣⑤まず理解し、それから理解される
情報の共有（場所・人・資金・保険等）

DAY5 9月13日（金）「計画を立て実行しよう」

グループ毎に事業計画の作成、発表
7つの習慣⑥シナジーを創り出す⑦刃を研ぐ
居場所ネットワークについて
受講感想シェア&宣言 “はじめの一歩”



〈成果・効果〉

- 仲間づくり…本年度も目標を超えて多くの参加（第3期 16名,第4期 21名）があった（目標は 15名/1クール）
- 居場所を増やす…2事業年度を通じて 6箇所スタートした（目標は 1箇所/1クール）
- 居場所の継続及び周知に向けて…「ふじさわ子どもの居場所ネットワーク」を通じて交流・学びの場を企画、ゆるやかにつながりながら支え合えるネットワークを継続していく。（Instagram,Facebook も併せて継続して活用）

事業を実施しての課題・3年後に叶えたいミライ

- 生き生きと活動するおとなを増やし、その見守りの中で安心して新しいことにチャレンジしたり、自分の「好き」を味わい、「自分を好き」といえる子どもたちを増やしたい。そのためにこのおとなの夢を叶えるWSを継続し、年間4校区ペースで居場所を増やし、現在ある9校区と合わせ、3年後は20/35校区を達成したい。
- WSの実施数を増やすため、受講者が講師になれる仕組みやネットワークの運営業務にも携われるような仕組みを作りたい。

藤沢市役所 市民自治推進課

電話 0466-50-3516

FAX 0466-50-8407

Email fj1-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp

発行:2025年(令和7年)7月